

日刊 勤労千葉

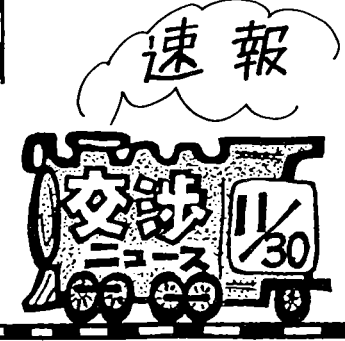
83.12.1
No. 1506

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

年末手当交渉妥結（二・三九月分） 12月9日以降

十一月三〇日、「八三年度 年末手当」に関する中央交渉が行われ、以下の内容で不満ながら妥結しました。

- (1) 支払範囲 一九八三年十二月九日現在職員
- (2) 支払額 基準内賃金（婚姻加算を除く）の二・三九月份
- (3) 支払日 一九八三年十二月九日以降準備でき次第



幕張支部は、十一月二一日第六回定期大会を職員集会所において開催し闘う方針を決定した。庫（クラ）が非番日にもかかわらず、「休や明を返上して定刻の十三時には会議室は委員・傍聴者でうずまり、ただちに大会が開始されていた。

みんなの団結で勝利してきた一年間
— 白井支部長あいさつ —

会議は篠塚副支部長の開会の挨拶後、議長に広部委員（事務）を選出し、スローガンの提起につづき、白井支部長の挨拶を受けた。白井支部長は「一年間重大課題が山づみあったが、みんなの団結で一つ一つ勝利してきた。この成果を確認し、来年も大いにがんばろう」と決意を明らかにし全員拍手で応えた。

二時間の討論を経て、方針を満場一致採択

真藤副支部長の経過と総括、秋葉書記次長の財政、滝口書記長の基調と方針の提起をそれぞれ受けたあと、活発な討論を展開した。

① 今年一年間の総決起、総行動をやりきってきたという実感が大である。職場にも自信と確信が見られる。こうした成果をうち固め、八〇年代中期を大いに闘うべきだ。

② 三里塚と反合が基軸であり、勤労千葉の強さの根源であることが立証されてきている。今後、支

部総体として三里塚への取りくみを更に強めるべきだ。

③ 勤労「本部」革マル土屋一派の危機は絶大である。だからといって彼らを許さず、彼らの解体・一掃にむけ徹底的にたたかおう。

④ 「59・2反合」と「3・25三里塚」が年末から春への最大課題であることは理解できる。どう運動をつくっていくのか企画を練る必要があると思う。

⑤ 一般採の運転士科試験の展望はどうか。

⑥ 「59・2」以降の合理化攻撃の内容と闘いについてどうか。等々の多くの意見に対し、本部中野委員長、布施書記長、支部から決意をこめた答弁がなされ、当面年末闘争を中曽根打倒の闘いとしてやりきることを確認し、満場一致、方針を採択した。

四つの視点を鮮明にする

- 第一の核心は、労農連帯の強化
- ・拡大をもって中曽根内閣を打倒してゆかため闘う。
- 第二は、反合、国鉄労働運動破壊攻撃を粉碎してゆく。
- 第三は、労働者の敵Ⅱ勤労革マル打倒、土屋一派解体・一掃を強

化する。第四は、密集せる反動をうち破り、組織強化を図り労働運動総体の闘う再生めざし不屈に闘う。以上の四つの核心課題を一人一人が受けとめ大会を終了した。

支部長	白井 忠博	検査
副支部長	篠塚 寧	
書記長	真藤 貞夫	
書記次長	滝口 誠	構内
執行委員	秋葉 忠夫	検査
	山岸 昇	検査
	加藤岡 英夫	検査
	菅井 俊造	
	吉野 幸成	
	山田 広吉	乗務
	勝山 武人	
	成毛 正克	構内
	堀越 良行	
	石幡 佳和	検査



家族会代表も参加
▼ あいむつに立つ白井支部長

「4つの視点」で団結し、幕張192名は前進

11/21 幕張支部大会 南かる 支部通信員 発